



古河電池株式会社

RECRUIT GUIDE 2023

商 号 古河電池株式会社 【東証一部上場】

設 立 1950年（昭和25年）9月

本 社 横浜市保土ヶ谷区星川

社 長 小野 眞一

資本金 16億4,000万円

売上高 599億円

従業員数 979名

主要事業 鉛蓄電池、リチウムイオン電池、
アルカリ蓄電池、電源装置 等

国内拠点 福島県いわき市、栃木県日光市、
富山県富山市他、全国

海外拠点 タイ、インドネシア

マイナビ 2023



お問い合わせ先

古河電池株式会社 人事部 採用教育グループ

TEL:045-336-5031

E-mail:saiyou@furukawadenchi.co.jp

THE FURUKAWA BATTERY CO., LTD.

Copyright ©2021 The Furukawa Battery Co., Ltd. All Rights Reserved.



電気電子・制御系⇒電源技術職

電池は蓄電のキーデバイスであり、再生可能エネルギーなどで有効活用するためにインテリジェントな充電器、インバータなどの電源装置が重要となります。テクノロジーとしては電力変換、電子制御、計測、通信などが重要な工学分野です。

機械・生産設計・生産技術系⇒生産技術職

電池の品質を維持し、効率よく生産することがものづくりの原点です。電極製造装置、組立装置、検査装置等の開発、稼働を行います。また製品仕様・コストを最適化する製造プロセス・工程の検討や設計も業務の一環です。機械工学の他、電機や化学の知識も幅広く必要で、極めて重要な役割を担っています。

物質・材料・化学系⇒研究開発職

電池開発では、材料物性、電極反応、電池挙動等に様々な評価解析手法と分析解析装置を活用し、高性能なものを短期間に効率的に開発するという手法がとられています。このような最先端の電池開発には、化学や電気化学の他、物理学など技術分野の幅広い知識が必要です。

法学・経済・経営等⇒生産管理職、営業職等

生産管理は工場の司令塔として、生産計画の立案・実施、そして工程管理を行い、製品をお客様にお届けしています。営業は単なるセールスではなく、会社の顔として常にお客様と向き合いながら最前線で業務を行っています。

私たち古河電池は、常に**挑戦者**であり続けることをスローガンとし、**公正と誠実**をモットーに、株主、従業員、お客様、地域社会をはじめとする様々なステークホルダーの期待に応えるため、永年にわたり培って来た**技術力**を核にして、絶え間ない**革新**を図り、持続的な成長と中長期的企業価値の向上を目指し、真に豊かで持続可能な社会の実現に貢献します。

事業紹介

その他

- 連結子会社の第一技研工業(株)による樹脂成型品製造など

不動産事業

- 連結子会社のHDホールディングス(株)による不動産賃貸・ビル管理

自動車事業

- 国内新車メーカー向けおよび取り換え需要、補修対応用の自動車用鉛蓄電池（環境対応車用含む）・二輪車用鉛蓄電池の製造・販売
- タイ子会社（SFC社）およびインドネシア子会社（FIBM社）での自動車用・二輪車用鉛蓄電池の製造・販売



Challenge

産業事業

- 産業用蓄電池（鉛蓄電池、アルカリ蓄電池、宇宙開発用リチウムイオン電池）、電源装置（直流電源装置、交流電源装置）の製造・販売

主な取引先

- ・自治体 ・電力会社 ・電気機械メーカー
- ・鉄道会社 ・通信事業者 ・通信機器メーカー

SUSTAINABLE GOALS



古河電池は、社会的価値と経済的価値の両面から社会課題に向き合い、お客様と社会に寄り添う経営を実践し、本業で培った技術とノウハウを活かしながら、企業価値の向上に努めてまいります。今後も健全性・持続可能性をいっそう高め、事業活動を通じたSDGsの達成に挑戦します



古河電池
SDGsへの挑戦

SDGsに関する取り組み

株式会社エコロミの「サステナブル・エナジーソリューション」に鉛蓄電池を提供
～福島県で再生可能エネルギー導入促進を後押し～

蓄電池・電源技術と地域におけるパートナーシップによって「サステナブル・エナジーソリューション」の展開を支え、福島県内の再エネ利用促進および環境保全に貢献するとともに、地域の雇用創出につなげることも目指しています。加えて、災害レジリエンスの強化、安全で安心な地域社会の実現にも寄与していきます。



- 1914 古河電気工業(株)、兵庫県
尼崎市に電池製作所を
開設



- 1950 古河電気工業(株)から独立。古河電池(株)として発足

- 1952 自動車用蓄電池の日本
工業規格表示の許可取得



- 1955 航空機用蓄電池の製品化



- 1961 本多電機(株)と資本提携。
ポケット式アルカリ蓄電池の販売開始

- 1970 今市市(現日光市)に
自動車用鉛蓄電池工場を建設

- 1978 いわき市に自動車用鉛蓄
電池工場を建設



- 1992 タイのサイアムセメント社
との合併でSIAM FURU-
KAWA CO., LTD (SFC社)
を設立



- 1995 ISO9001認証取得

- 1999 ISO14001認証取得

- 2003 世界初の宇宙用リチウム
イオン電池の開発に成功。
小惑星探査機「はやぶさ」
に搭載



イラスト:池下 章裕

- 2006 鉛蓄電池の性能を大幅に
改善したUltraBatteryを
開発



- 2012 ハイブリッド車補機・アイドリングストップ車用
鉛蓄電池ECHNO[エクノ]HV・ISを発売

- 2013 インドネシアのINDOMOBILグループとの合併
でPT.FURUKAWA INDOMOBIL BATTERY
MANUFACTURING
(FIBM) を設立



- いわきの自動車用鉛蓄電池
工場設備を增強



- 2014 非常用マグネシウム空気電池MgBOXを開発

- 小惑星探査機「はやぶさ2」にリチウムイオン電池
を搭載

- 2016 ベトナムの蓄電池メーカー Dry Cell and Storage
Battery Joint Stock Companyの発行済株式
10.5%取得

- 2017 東京都立大学とともに、次世代リチウム電池開発
会社(株)ABRIを設立

- 2018 「新しい東北」復興ビジネス
コンテスト2018で「優秀賞」
を受賞



- 2019 当社製リチウムイオン電池
を搭載した「はやぶさ2」、
小惑星リュウグウへのタッ
チダウン成功



イラスト:池下 章裕

- 2020 性能・安全性・経済性すべて
を満たす「バイポーラ型蓄電
池」を開発



- 2021 マクセル(株)より積層ラミ
ネート型リチウムイオン
電池事業を承継

